

令和5年度 岐阜市立女子短期大学将来構想委員会（第6回）
議事録 概要

- 【日 時】 令和6年1月26日（金）14時00分～16時00分
【場 所】 岐阜市役所10階 10-2会議室
【出席者】 （会場出席）
杉山 誠委員長、
石田 達也委員、木田 竜太郎委員
（オンライン出席）
村井 美代子副委員長、田丸 敏高委員
（欠席）
両角 亜希子委員

1 開会

2 議事 ※< >は、説明者

- ◆答申（案）及び同概要 <事務局>

- ◆以下、出席者の意見

答申の構成

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・事務局説明のとおり、前回議論した答申骨子（案）を答申（案）に落とし込んだ。議論を進めるにあたり、まず全体を見た方がよいかと思うので、概要を見つつ答申（案）の骨格を確認したい。

答申（案）は大きく4つの柱で構成されている。「1. 将来構想策定に向けた基本的な考え方」、「2. 大学・地域をめぐる現状」、そして「3. 将来構想の各論点」として、これまで議論してきた「（1）別学・共学のあり方」、「（2）4年制ニーズへの対応」、「（3）提供する学問分野のあり方」、「（4）地域連携・機関連携の促進」の4項目があり、「4. 今後期待される事項」として、教育研究機能の充実強化、教育の質保証等の自己改革、コミュニケーションの重要性の3項目という構成になっている。自己改革の部分が概要から抜けているかと思うが、まず構成について意見を頂きたい。（意見なし）
それでは、このような形で答申することとしたい。

1. 将来構想策定に向けた基本的な考え方

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・まず「1. 将来構想策定に向けた基本的な考え方」について意見を伺いたい。

○委員（田丸 敏高 氏）

- ・よくまとめられていて、全体的にととてもすっきりした答申になっていると思う。
- ・答申（案）1 ページの3 段落目に「自治体の高等教育政策の中心的役割を担う公立大学として」とあるが、高等教育政策を策定するのは自治体で、それに応えて教育研究を行うのが公立大学だということをもう少しはっきりさせるために、一つにまとめず、例えば「自治体の高等教育政策に応じて教育研究を行う公立大学として」という言い方にしたほうが、それぞれの役割が明確になるのではないか。教育政策そのものを作るのは公立大学ではないので、その辺りが整理された書きぶりになるとよい。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・公立大学が自治体の高等教育政策を作る役割を担うかのように読めてしまうというのはご指摘のとおりなので、少し修正したい。

○副委員長（村井 美代子 氏）

- ・1 点確認したい。答申（案）1 ページの4 段落目に「我が国や地域の未来への貢献を見据えて」とあり、概要の「1」の2 番目にも同様の記載がある。これまでは地域にのみ言及されており、前回その部分に修正意見は出ていなかったもので意図的に加筆されたのだと思うが、9 月に文部科学大臣から中央教育審議会に出された諮問では、国公立で設置形態が異なるので、それぞれの特色を生かすため、公立はあくまで地域活性化の推進や行政課題の解決を行うとして国立とは役割が分けられていた。加筆について異論があるわけではないが、意図を確認させていただきたい。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・地域への貢献は公立大学の主軸だが、それが国全体に裨益し、更には国際的に展開していくことを考えると、あまりこぢんまりとまとまらない方がよいかと思い「我が国」と入れた。その意味では、地域への貢献を先にして国を後にした方が順番としてよいのかもしれないが、大きさの観点からこのような並びになっている。

○副委員長（村井 美代子 氏）

- ・承知した。前回、内部質保証についても国際的に通用するようなものという議論があったので、そこに通じる部分かとも思い確認させていただいた。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・前回、地域の問題は地域だけのものではなく、ひいては我が国の問題になるという論点があったので、ここに反映している。

- ・他に意見があれば伺いたい。(意見なし)
それでは、「自治体の高等教育政策の中心的役割」という箇所について、自治体が高等教育政策を作り、それに応える公立大学という形に修正したい。

2. 大学・地域をめぐる現状

○委員長(杉山 誠 氏)

- ・「2. 大学・地域をめぐる現状」について意見を頂きたい。
ここは「学力中間層」という言葉が分かりづらいという指摘を石田委員などからいただいたが、「大学進学希望者を学力の分布から解析した場合」として、少し補足している。
- ・また今月 31 日を締切として意見を頂く機会を作るので、細かいところはそこでお伝えいただき、本日は大きな流れや考え方についてご指摘いただければと思う。なお答申(案)の文章は、事務局案を私の方で確認しつつ作成したもの。現状についてはこのような内容でよいか。(異議なし)

3. 将来構想の論点

(1) 別学・共学のあり方

○委員長(杉山 誠 氏)

- ・「3. 将来構想の論点」に移りたい。「(1) 別学・共学のあり方」については、別学から共学にすべきという意見で一致しているので、結論はこれによいと思うが、それに至るまでの過程で補足や修正があれば伺いたい。(意見なし)
それでは、本委員会としては共学への変革を一つ大きな柱としたい。

(2) 4年制ニーズへの対応

○委員長(杉山 誠 氏)

- ・続いて「(2) 4年制ニーズへの対応」については、4年制に舵を切るべきだというのが本委員会の方針となっているが、どうか。これについても、本委員会の中では4年制という意見で一致しているので結論はよいと思うが、そこに至る根拠について補足等があれば頂きたい。(意見なし)
それでは、4年制に舵を切るべきだという結論で答申に入れたい。

(3) 提供する学問分野のあり方

○委員長(杉山 誠 氏)

- ・「(3) 提供する学問分野のあり方」について意見を頂きたい。この項目は、一言で言えば、福山市立大学を例にとりながら、従来からあった分野に加えて経営系のような地域経済活性化のための専門教育をデータ活用なども強く打ち出しつつ行うことの必要性を述べつつ、そこに強い教養教育、新しい教養教育を加えていくという形になるかと思う。

○委員（田丸 敏高 氏）

- ・全体的によく書かれていると思うが、最後の段落の「…教養は、ますますその重要性を増しており、専門と教養を厳格に分断しないことも肝要である。」という部分について、学生の人生の基盤となるような教養教育であると同時に、専門を深める意味でも教養教育が必要であり、教養によって裾野を広げていくことが大事だという議論をしてきたと思うので、「分断しない」とするよりも、「専門を深めるためにも教養によって裾野を広げていくことが肝要である」のような、積極的な言い方にしたほうが全体の趣旨に合うのではないか。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・専門と教養があまりに別々に行われてしまうと問題であるという観点からこの部分を入れているので、少し表現が引きずられている。本質は、田丸委員が仰るとおり、専門を深めるために教養教育をきちんとやることが重要ということなので、私も修正を入れた方がよいと思う。この項目の趣旨としては、新たな専門分野についての議論を進める中で、専門のためにも教養教育をしっかりやってほしいというのが最終的な締めであるので、仰るような言い方のほうが全体の流れとしてもふさわしいかと思うがどうか。（異議なし）
それでは、ここは専門を深めるために教養教育が重要であるという形に修正したい。

（４）地域連携・機関間連携の促進

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・「（４）地域連携・機関間連携の促進」は、そのものを議論したわけではないが、議論の中で、こうしたことを考えることによって、より新しい大学を構築することが可能ではないかということから答申に入れることとした。この項目については、大学連携や教育連携をはじめとする様々な形での連携において、存在感を出して行ってほしいという趣旨になっている。

○委員（田丸 敏高 氏）

- ・全体はこのとおりだと思う。最後の段落に「地域特性を特徴とする公立大学としての存立意義は」とあるが、せっかく岐阜市のことを話してきているので、例えば「岐阜市が設立する公立大学」のように、自治体が設立する公立大学としての存立意義ということを示したほうが諮問に答えるという意味でよいのではないか。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・確かに総論的に書かれている印象がある。フォーカスを動かさないという意味

では、田丸委員の仰るとおり、ここは岐阜市が設置するとした方がメッセージとしてしっかり伝わる。どうしても総論的な、他の大学でも使えるかもしれない用語を使ってしまいがちだが、今重要なのは「岐阜市」というところなので、岐阜市が設置する公立大学はこうあるべきだというメッセージを最初にきちんと打ち出すことは重要と思う。

○委員（石田 達也 氏）

- ・意図的に分けられているのかもしれないが、4段落目に「岐阜市」という用語と「岐阜」という用語がある。田丸委員が仰ったこととも共通しているかもしれないが、岐阜県全体のことを考えつつも表記は統一してよいのではないか。
- ・結びの部分の「可能性も否定できない」というのは裏返しのような言い方であるので、その成果が岐阜、もしくは岐阜市に還元されることも大いに期待できる、というような書きぶりにはどうか。そこまで言うと少し言い過ぎかもしれないが、「可能性も否定できない」だと、ほとんど駄目だが少しはあるという感じに捉えられてしまうので、このことによる成果がきちんと還元され、岐阜市において生きてくるというメッセージになるとよい。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・「岐阜」と「岐阜市」は使い分けがあまり意識されていないかもしれない。ここは「岐阜市」でよいと思う。
- ・結びの部分は、自然科学に携わっていると使いがちな表現で申し訳ない。かなり確率が低いときに使う表現だが、ここでは可能性があるわけなので、「可能性はある」とした方がよいだろう。「期待できる」のようなポジティブな表現に変えたい。
- ・それでは、「岐阜」を「岐阜市」にすることと、「可能性も否定できない」をポジティブな言葉に置き換えるということによいか。（異議なし）
- ・オンラインで様々な大学が繋がっているという話は木田委員から伺って入れたものだが、意見などあれば頂きたい。

○委員（木田 竜太郎 氏）

- ・「可能性も否定できない」という表現の修正については私も同意見である。
- ・「岐阜市」の表現について、田丸委員が仰った「地域特性」という言葉は答申（案）1ページの2段落目に最初に出てくるが、ここの「岐阜県における大学の在り方には」という部分も、「岐阜市」としてよいのではないかと思う。全体を通して「岐阜市」の表現を見直すことは、前後の繋がりもあるので難しいかもしれないが、「岐阜市立」あるいは「岐阜市」という言葉を一貫させて強調できれば、もう少し表現が明確になり説得力も増すのではないか。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・その辺りの考え方を最初に議論していなかったことで混乱が出ているのだと思う。私の中の整理では、岐女短を取り巻くものを述べる時は「岐阜市」という言葉を使うべきだろうし、受験に関しては、大学は岐阜市だけを指すのではなく、統計的にも県を対象としたものしかないので、数字等の根拠を示す部分ではどうしても「岐阜県」という言葉になると考えている。その意味では、先ほどの2段落目は受験層に言及している箇所なので「岐阜県」という言葉になろうかと思う。先ほど指摘のあった箇所（（4）の4段落目）を「岐阜市」とする理由も、岐女短が置かれている状況を想定していることから「岐阜市」となるということである。おそらく、そういう基準が曖昧なために、「岐阜」という県でも市でもない表現が出てきているので、もう一度今の観点から全体を見直し整理したい。それでよいか。（異議なし）

4. 今後期待される事項

（1）研究機能の充実

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・「4. 今後期待される事項」の「（1）教育研究機能の一層の充実」について、骨子（案）では「研究機能の充実」となっていたが、大学は教育機関であり、研究機能を充実させることは教育機能を充実させることでもあるという観点から、「教育」という言葉を入れた。
- ・大学院まで設置することは田丸委員の意見だったと思うが、このような趣旨でよいか。

○委員（田丸 敏高 氏）

- ・趣旨はこのとおりだと思うが、短大か大学かという議論をしているときに大学院まで持たせるべきと言ってしまうと、そこまでは、という気持ちにさせてしまい、逆効果になってしまうとよくない。大学院は期待されるものとしてあるが、当面は大学を作ることが重点だと思う。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・大学院まで考えて学部を作ると、ただ学部を作るとでは最初のデザインが変わってくる可能性がある。現実的にどこまで作るかという話はさておき、学生の卒業時に大学院を設置するという意識はあるとよい。こうあるべきだという答申なので、大学院についても入れるべきだと考える。それをどう政策に反映させるかは次のステップになる。大学院の設置についてぜひ考えていただきたいということが本委員会の意見でよいか。（異議なし）

（2）大学による教育の質保証や自己改革

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・続いて、「(2) 大学による教育の質保証や自己改革」として、自己改革という言葉を入れた。重要なのは社会の動向やあるべき将来像も考えながら、不断の自己改革を行うことで、やはり大学は、常にそうしたものを見ながら自分たちで動いていくという意識を持たなければならない、そうしないと10年後には陳腐なものになってしまう。
- ・概要から自己改革の部分が抜けてしまったので、ここは重要な事項であり、ぜひ入れてもらいたい。
- ・他に意見はどうか。（意見なし）

(3) 関係者とのコミュニケーション

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・「(3) 関係者とのコミュニケーション」は、先ほどの話とも繋がってくるが、大学は、ともすると自分たちだけで閉鎖的に物を考えがちだがそれではいけない。コミュニケーションを意識し、様々な方と話をすることが非常に重要だと思うので、骨子（案）にはなかった「ツーウェイ・コミュニケーション」という言葉を入れた。
- ・自己改革にも繋がるかもしれないが、社会の情報をしっかりと捉え、それをまた改革に繋げていくというプロセスにおいて、あまりに左右されてはいけないがまずは周りの意見を聴くことが必要。自己をもちながらコミュニケーションをとることが大事になる。実際にやるとなると大変だが、あるべき姿だと思う。

○副委員長（村井 美代子 氏）

- ・(2) と (3) は本学でも思うところが様々ある部分で、よくまとめられていると思う。
- ・「納税者」という言葉について、これは「市民」という意味で使われているということでよいか。(3) に「納税者である市民等」とあり、ここでは納税者と市民がイコールだが、(2) では「納税者への説明責任」「納税者をはじめとするステークホルダー」と、あえて「市民」ではなく「納税者」と表記している。また答申（案）3 ページの1 段落目にも「納税者」とある。ここは設置者の立場から書いてあるので納税者イコール市民という想定かと思うが、どうか。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・感覚的な使い分けかもしれない。「納税者」と言うと響きが強く、「市民」と言うと岐阜市民だけではないようなざっくりとした表現になり、少し響きが弱くなる。そのようなイメージがあるため、「説明責任」には「納税者」となり、開かれたパブリックなという意味では「市民」という言葉になっているのだと思うが、それが意識的に使い分けられているかというやや不安がある。自分の

中では今のような整理をしているが、一度見直した方がよいかもしれない。

○副委員長（村井 美代子 氏）

- ・様々な方がいるので、意味がある使い分けであっても納税義務に言及する表現は難しい。税金で作っているということは本学もよく言われることで、設置者の観点からするとそのとおりだと思う。また仰るとおり、「説明責任」には「納税者」という組み合わせの方がよいかもしれない。ただ、「納税者」と言うと市民を限定するようなときがあり使い方が難しい。本学でもときどき問題になる文言なので、確認させていただいた。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・重要なお指摘だと思う。言葉を実感的に使っているところは否めないで、「ステークホルダー」「納税者」「市民」といった言葉をもう一度全体的に見直し、適切な言葉に置き換えたい。

○委員（田丸 敏高 氏）

- ・関連して、市立大学は市と非常に近いところにあるという点で、国立大学とはだいぶ状況が異なるのだと思う。コミュニケーションのルートはいくつかあり、議会にきちんと説明されることが市民に説明されることに繋がるとして、議会を通じて話をするのもあれば、産業界に出かけて話をすることや、高校や高校生に対して話をすることもある。いろいろなルートがあり、それぞれに対して説明を果たしていくということがここで言われていることだと思うので、そこを分かりやすく表現できるとよい。
- ・学生は非常に大事である。入学者募集では、教員を他地域に派遣して説明したり、パンフレットの制作やホームページの改良をしたりするなど様々なことをされていると思うが、一番効果的だったのは、学生や卒業生が自分の高校に戻り、大学の良さを高校生や高校の先生に話してもらうことだった。学生が大事にされ、納得して勉強していくような環境を確保することが公立大学において大切だと感じてきたので、大学の在學生を大事にしていくということを書くと、全体が分かりやすいのではないかと思う。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・学生が高校に帰って話すことは非常にリアルな情報なので、そこで悪い評判が出るとだんだんと落ちていくということは我々も経験している。しっかりした教育を行うことが回りまわって安定的な入学者に繋がることは事実だと思うが、それをどのように答申に入れるか悩ましい。「ステークホルダー」には在學生も含まれるので、わかりやすく「在學生」という言葉を入れてもよいが、コミュニケーションというわけでもないのどう入れるか。自己評価を行うと

きに学生の意見を聴くということが最近よく言われており、特に欧米などではそれが常識になっているので、2段落目辺りに学生の意見について入れるのがよいか。田丸委員はどう思われるか。

○委員（田丸 敏高 氏）

- ・それがよいのではないか。1段落目と2段落目の間に、学生の意見を聴くということを入れこむのがよいと思う。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・承知した。それでは学生の意見について、学生も大学の運営に参画していくというような形で答申に加えていきたい。国際認証では必ず言及される部分なので、国際通用性にも繋がってくる。

○委員（木田 竜太郎 氏）

- ・「納税者」という言葉は、序盤の会議において、近年はニューパブリックマネジメント的な大学改革が問われているという中で、私が最初に出した言葉だと記憶している。最近の全体的な傾向として、特に一部の行政の首長などにおいて「市民」という言葉が「納税者」という言葉に置き換えられつつあるのは、「市民」という言葉は幅広い表現で包摂性があり個人的にはそちらのほうがふさわしいと思っているものの、一方では、あえて「納税者」と言うことで税金の使い道に関する説明責任などが新自由主義的な大学改革の中で特に強調されなければならない傾向があり、そのような中で、あくまで現状認識の文脈で「納税者」という表現を使ったものなので、答申の中で必ずしも連呼する必要はない。答申においては、ともすれば一部の人を排除するような誤解を招きかねない表現ではなく、オーソドックスな「市民」という表現にある程度統一してもよいのではないか。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・税金の使途の説明責任というところでは「納税者」という言葉になるのだろうと思う。他方、それだけで公益性のあるものができるとは思えないので、全体像として「市民」という言葉になってくる。その意味で、先ほどの4（3）はわざわざ「納税者」とする必要はないかもしれない。この辺りについて、文言を整理したいと思う。
- ・答申の最後を「新生『岐阜市設置の市立大学』像の実現に向けた取組を進めていくことを期待する。」として結びたい。「新生」という言葉を入れさせていた。このように結ぶことでよいか。（異議なし）

総括

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・それでは全体を振り返って意見があれば再度伺いたい。2月8日に答申予定なので、先ほど申し上げたように、何かあれば今月31日までに事務局に意見を頂きたい。特に今回、ご欠席の両角委員から意見を頂けていないので、両角委員の意見も伺って考えたい。僭越なお願いとなるが、この後、委員各位に再度お集まりいただけないので、最後は私にお任せいただけてよろしいか。（意見なし、委員から「よろしく申し上げます」の声）
- ・本日修正したところは委員全員に一度見ていただくことでよいか。

○事務局（企画部 総合政策課大学改革推進室）

- ・本日頂いたご意見については、急ぎ修正案を作成のうえ委員各位にお送りする。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・承知した。それではその後31日までに頂いた意見を基にこちらで修正し、僭越だが、最後は私にお任せいただきたい。（異議なし）
- ・最後に確認だが、若干の修正は入ったが、これを私たちの答申として取りまとめてよいか。お認めいただけるか。（異議なし）
それでは、答申（案）を修正し、最終的に答申という形にしたい。これでこの委員会を閉じることになる。今後は、先ほど申し上げたように2月8日に市長に答申をお渡しするという事で進めていく。

3 閉会

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・これで閉会となるが、畑中学長から意見などあれば頂きたい。

○事務局（岐女短 畑中 重光 学長）

- ・岐女短の学長として、杉山委員長はじめ委員の皆様には厚く御礼を申し上げたい。我が国の現状と現代社会の動向を踏まえたうえで、岐女短の将来あるべき姿について、専門家である委員の方々から、大所高所から答申という形でご提言をいただき、今後は、頂いた答申を踏まえた市長からの指示に基づき、関係部署と協働しながら次のステップを踏んでいくことになろうかと思う。その際、学内の教職員はもちろん、先ほどからご議論いただいているように、ステークホルダーの方々とのコミュニケーションをとりながら、岐阜市立の高等教育機関として発展できるよう、また世の中の動きを的確に捉え、できるだけ速やかに大学改革が進められるよう努力してまいりたい。今回の委員会では、委員の皆様から大変多くのことを個人的にも学ばせていただいた。厚く御礼申し上げます。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・委員各位からも一言ずつ頂きたい。

○委員（石田 達也 氏）

- ・岐阜市の皆さんにお伝えしたいこととして、前回の4年制化や共学化についての議論が新聞に出たことを受け、県内の校長先生からかなりの反応があった。反応のほぼ全てが大きな期待である。どういった大学を作ってもらえるのかということや、岐阜県の高校生が岐阜で学ぶことができる道が開ければ、県にとっても高校にとってもありがたいということだった。この期待とともに、疑問として出たのが、いつ頃に新しい大学ができるのかということであった。高校が直面している問題として人数減がある。これは後に大学の入学者数に繋がり、数年後に加速的に子どもの数が減る中、どのタイミングでできるかということも、大学の行く末に関わってくる。遅くなることで効果を生まなくなることは残念なので、時間がかかり大きな協議も必要であるが、動向を踏まえ、お考えいただきたい。

○委員（木田 竜太郎 氏）

- ・公立大学が何かということを見ると、日本の高等教育の独特な制度であり、個人的な研究課題でもある。自分自身も岐阜と繋がりがあるので、個人的にも良い大学になっていただくことを期待している。

○委員（田丸 敏高 氏）

- ・大学づくりは市にとってはまちづくりである。県外からも多くの人が入ってくるので、大学に見合ったまちづくりが必要になる。夢のある仕事であり、しっかり取り組む価値があるものなので、期待している。

○副委員長（村井 美代子 氏）

- ・三重短期大学と重ね合わせて考える機会となった。三重短期大学も議会の中で将来は4年制化も考えるようにとの話もあったが、市長は、短大として負けているのではなく勝ち残っていると答弁された。我々は当面短大としてやっていくことになるが、岐阜市で市と大学が一緒に考えていくということが、大変勉強となる機会になった。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・事務局から挨拶があるということなので、願います。

○事務局（企画部長）

- ・事務局を代表してご挨拶申し上げます。まずもって、委員の皆様方におかれては、岐女短のあり方について6回にわたり熱心にご議論いただき、心より感謝申し

上げる。また先ほどは、委員の皆様から事務局に対するお言葉やエールを頂き胸が熱くなる思い。岐女短は大変歴史ある学校であり、略称とともに岐阜市民にとっては非常に身近な愛着ある大学。委員の皆様から、岐女短の目線あるいは岐阜市の目線で、時には大局的な観点から前向きなご意見をたくさん頂戴できたことについて、大変嬉しく思っている。

- ・冒頭での事務局説明のとおり、2月の初めに杉山委員長から答申を頂き、その後、岐阜市の中で将来構想を策定することになる。その後は、将来構想の実現に向け、まさに生々しい改革が待っているのだろうと我々も準備をしているところ。どうか委員の皆様におかれては、岐阜市の今後の取り組みについてもご注目いただき、可能であれば、またアドバイス等を頂ければ幸甚。今後とも、委員の皆様にはご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げますとともに、これまでのご尽力に重ねて御礼申し上げます。

○委員長（杉山 誠 氏）

- ・最後に私から少しご挨拶申し上げたい。本日、ある程度納得ができる答申ができたのは、まさに委員の皆様のご尽力の賜物であり、事務局のご支援もいただいてようやく漕ぎ着けたものと考えている。3回目頃の会議で、委員長も意見を言ってほしいと言われたことがあった。自分では発言しているつもりだったがそう見えなかったということは、私が言いたいことを委員の皆様が述べてくださっており、私は補足で済んでいたということだと思う。そのように皆様に引っ張っていただきながら答申まで漕ぎ着けることができた。改めて御礼申し上げます。狭い世界なので、また仕事でご一緒する機会もあると思う。そのときまでぜひ皆様ご健康で、現役で頑張っていたいただきたい。またお会いできることを楽しみにしている。今回このようにまとめることができ、改めて皆様に感謝申し上げたい。